

以前はよく、お正月にたこ凧揚げやこま独楽回しをする男の子を見かけました。年が明けると、どこでも見ることできたお正月のふうぶつし風物詩。今では、凧揚げや独楽回しを男の子の遊びと限るのはどうなのか？と議論になることもなく、お正月の遊び道具としては、凧も独楽も限られた地域のものになってしまったのかも知れません。

一口に独楽といっても、色んな種類があり、時代によって姿、形を変えています。単純なひねり独楽やもみ独楽に始まり、たたき独楽・ひもま紐巻き独楽・ベイゴマなどがあります。最近ではベイブレードというシューターを使ったものまであります。ほかに、宇宙ゴマといわれる、斜めに立ててもその場で回る金属製の独楽もありました。懐かしいという方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

独楽の遊び方も、単に回すだけのものから、色を楽しんだりする色鮮やかな独楽。音が出るように作られた、鳴らし独楽。回っている時間の長さを競う、寿命比べ。土俵を作り何人かで生き残りを競う、出し独楽やけんか喧嘩独楽。独楽の曲芸などとさまざまあり、独楽は古くから私たちを楽しませてくれています。

禅宗では、よくざぜん坐禅を独楽の回っている状態にたと喩えます。「せい どう静と動」。回転の動きが強く激しいからこそ止まっているように見え、回転が弱いと安定しません。ゆえ故に、坐禅中に集中力が欠けていて弱いと、心や考え方が動いてしまうことをたと喩えているのです。

独楽が回るにはバランスが取れていないと回りようがありません。しく軸を中心にして回るのが独楽です。私たちの生き方も軸がないと、バランスが取れません。独楽でも色々な種類や目的があって、大きさも違います。個性的な色や形もあります。同じ場所で他の独楽と回れば、独楽同士がぶつかることもあるでしょう。その時にバランスを崩さなければ回り続けることができるのです。

軸にすべき何かは、それぞれが自分に合ったものを選べば良いのですが、仏教を学べば、きっと私たちの生きる良い軸になると思います。

生き方の軸として仏教をこれから学んでみてはいかがでしょうか？